

近年の南アジア考古学の動向

—第22回ヨーロッパにおける南アジア考古学・美術史学会議に参加して—

野口 淳

Recent Trends in the South Asian Archaeology:

The 22nd Conference of European Association for South Asian Archaeology and Arts

Atsushi NOGUCHI

キーワード：学会報告、南アジア、文化財保護

Key-words: conference report, South Asia, protection of cultural property

「ヨーロッパにおける南アジア考古学・美術史学会 (The European Association for South Asian Archaeology and Arts: EASAA)」は、1970年に設立された、その名のおりヨーロッパを中心とした大学・研究機関などに所属する研究者たちを中心に組織された学会である。設立当初の学会名称は「西ヨーロッパにおける南アジア考古学会 (The Association for South Asian Archaeologist in Western Europe)」であり、第1回会議は1971年7月に英国ケンブリッジ大学で開催された (Hammond 1973: xi)。以来、ヨーロッパ各国で隔年開催され、ベルリンの壁崩壊、旧ソ連邦解体後の1993年の第12回会議 (会場：ヘルシンキ) より「ヨーロッパにおける南アジア考古学会 (The European Association for South Asian Archaeologist)」に名称が変更された。現在の名称となったのは設立40周年となる2010年の第20回会議 (会場：ウィーン) からである。

設立当初の枠組みとしては、「ヨーロッパを基盤として、イランおよびビルマとの国境の間のインド亜大陸における先史および歴史考古学を専門とする研究者のフォーラム」であったが、第1回会議では、西はイラン南東部シスタン (Sistan) やアフガニスタンから、東はマレーシア、インドネシアまで、また50万年前の前期旧石器時代から18～19世紀の図像学までが取り上げられることとなった (Hammond 1973: xi)。以来、南アジアを核として、関連する中央アジア、イラン、アラビア半島東部、東南アジアの一部を含む範囲の、先史時代から歴史時代までの考古学、碑文学、美術史などの幅広いテーマが扱われる学会として確立されている。とくに会員登録などは必要とされず、一度でも会議に参加した者は会員とみなされる。学会の運営は、オーストリア、フィンランド、フランス、

ドイツ、英国、イタリア、オランダ、スペイン、スウェーデン (英文表記のABC順) 各国の研究者からなる執行委員会が行なわれる。

第22回会議は、2014年6月30日から7月4日までの日程で、スウェーデン・ストックホルムの極東古代美術館 (Museum of Far Eastern Antiquities/Östasiatiska Museet) と現代美術館 (Museum of Modern Art/Moderna Museet) を会場として開催された。なお6月29日夜には小規模なレセプションが極東古代美術館で開催された。

6月30日は午前11時から、著名なインド古代史家であるロミラ・ターパル (Romila Thapar) ジャワハルラー・ネルー大学 (Jawaharlal Nehru University) 名誉教授による「過去を表わす—古代インド— (Representing the Past: Early India)」と題する基調講演が行なわれた。同日午後からは、第1会場：現代美術館 (おもに考古学)、第2会場：極東古代美術館 (美術史・建築・碑文・文献史・文化遺産など) の2会場に分かれて研究発表が行なわれ



図1 極東古代美術館 (第2会場)

た。途中、7月2日午後のエクスカージョン（ストックホルム湾内をめぐるクルーズ）を挟み、7月4日午前まで研究発表が続き、同日午後には総会が開催されて幕を閉じた。この間、プログラムに登録されていた研究発表は、第1会場が53本、第2会場が50本、あわせて103本であった。ただし当日までにキャンセルされたものがあり、実際の研究発表の本数はこれより少ない。参加者はおもに、ヨーロッパ諸国およびアメリカ合衆国の研究者、インド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュなど南アジア諸国の研究者である。日本からは筆者のほか6名の参加があり、5本の研究発表が行なわれた。

両会場の研究発表は、テーマ、時代、地域などで大まかに区分された「セッション」にまとめられている。ただし要旨内容を十分に検討した上で配分されたとは思えないものの中にはあった。以下に、両会場のセッションと登録されていた研究発表の本数をまとめる。

第1会場

セッション1~7までは「大インダス（Greater Indus）」としてインダス文明およびその周辺領域の先史・原史時代が取り扱われた。詳細は以下のとおり。

1. 環境と資源利用
(Environment and resource utilization) 4
2. セトルメントと農耕戦略
(Settlement and agrarian strategies) 4
3. 長期的気候変動と生業戦略
(Long term climatic change and subsistence strategies) 3
4. 集落研究 (Settlement studies) 3
5. 物質文化と生産技術
(Material culture and production techniques) 4
6. 印章—技術とモチーフの比較研究
(Seals: comparative studies of techniques and motifs) 4
7. 物質文化の比較研究
(Comparative studies of material culture) 4
セッション8以降は、原則として地域と時代ごとの区分に拠っている。
8. インド—先史・原史時代の生産景観
(India: The pre- and protohistoric production landscape) 3
9. インド洋—歴史時代の交易ネットワーク
(Indian Ocean: Evidence for historic period trading networks) 3
10. インド—歴史時代の都市研究
(India: Historic period urban studies) 4

11. インド—歴史時代の資源利用
(India: Historic period resource utilization) 1
12. スリランカ—歴史時代の都市研究とネットワーク
(Sri Lanka: Historic period urban studies and networks) 3
13. 南タジキスタンとスワート—原史時代／ラダックとバルフ—文化的景観の長期的展望 (S Tadjikistan & Swat: Proto-history/Ladakh and Balkh: Long-term perspectives on the cultural landscape) 4
14. 仏教僧院と物質文化—初期歴史時代
(Buddhist monasteries and material culture: Early history)」 4
15. ハイバル・パフトゥンフワー—文化的景観の長期的展望
(Khyber Pakhtunkhwa: The cultural landscape in a long-term perspective) 3

第2会場

1. ヒンドゥー教およびジャイナ教の図像学
(Hindu and Jain iconography) 4
2. ヒンドゥー教図像学 (Hindu iconography) 4
3. 仏教図像学と社会的背景
(Buddhist iconography and social context) 2
4. 南アジアのロックアート (South Asia: Rock art) 3
5. ヒンドゥー寺院建築と寄進
(Hindu temple architecture and patronage) 4
6. 南アジア絵画の図像と形式
(Iconography and format of South Asian paintings) 4
7. 寺院建築と図像
(Temple architecture and iconography) 3
8. 南アジアの中世建築—比較研究—
(South Asian Medieval architecture: Comparative studies) 3
9. インド・グリーク／インド・イランの初期歴史時代研究
(Indo-Greek/Indo-Iranian early historical studies) 3



図2 総会風景 (7月4日午後)

10. 初期歴史時代の仏教図像学
(Buddhist iconography: Early history) 4
11. ガンダーラ—物質文化の比較研究—
(Gandhara: Comparative studies of material culture) 3
12. 初期歴史時代の仏教図像学
(Buddhist iconography: Early history) 3
13. バングラデシュおよび西ベンガルにおける歴史時代の都市研究 (Bangladesh & West Bengal: Historic period urban studies) ※このセッションは考古学調査がテーマ
14. 文化遺産—歴史的様相と今日的課題—
(Cultural Heritage: Historical aspects and contemporary issues) 4
15. ドゥッラーニー朝—新たな視点—
(Durrani's Rule: New perspectives) 1

以下に、筆者が参加することができたセッションについて概要を報告し、最近の南アジア考古学の動向を展望する。

まず「大インダス」の一連の研究発表では、西部グジャラート (Gujarat) 州におけるスペイン—インド共同調査プロジェクト (North Gujarat Archaeological Project: NoGAP)、およびインド北西部ハリヤーナー (Haryana) 州—ラージャスターン (Rajasthan) 州における英—インド共同調査プロジェクト (*Land, Water, Settlement Project*, Petrie et al. 2014) からの報告が多数を占めた。両者に共通するのは、大規模なマウンド遺跡の発掘調査ではなく、地域的なサーヴェイにもとづくセトルメント・パターン把握と、年代測定あるいは気候・古環境復元のための試料採取も含めた試掘調査を展開することで、一定の地域的範囲における通時的な人類社会の動態、および気候・環境変化との関連を解明することに主眼をおく研究戦略である。とくに前者は、タール (Thar) 砂漠南東縁辺部の半乾燥地帯における完新世の気候変動と、遊牧・農耕社会の成立過程に焦点を当てている。一方後者は、ガッガル (Ghaggar) 平原における初期農耕社会以降の長期的な集落分布の動態を、河川環境を中心とする地形環境の変遷との関連で捉えることを目指している。そこでは、土壌微細形態学 (Soil micromorphology) による堆積環境分析 (Neogi et al. 2014)、衛星画像解析による地形分析 (Conesa et al. 2014)、炭化植物遺体・同位体分析にもとづく降雨量分析 (Jones et al. 2014; Lancelotti et al. 2014)、植物遺体・ファイトリス・デンプンにもとづく生業分析 (Bates et al. 2014; García-Granero et al. 2014)、家畜遺体の同位体分析に基づく遊牧領域分析 (Chase et al. 2014) などが進められている。

一方で、両プロジェクトに関連する「伝統的な」考古資



図3 エクスカーション風景

料の検討に関する研究は少なく、前者では石器 (Gadekar and Ajithprasad 2014)、後者では土器 (Parikh 2014) に関する発表が各1本ずつあっただけであった。しかも土器については、ほかに現パキスタン西部バローチースターン (Balochistan) 州における紀元前4千年紀~2千年紀の土器の彩色技法に関する発表 (Didier and Bouquillon 2014) があっただけであった。石器については、ほかに筆者によるインダス川下流域における石刃石器群について (Noguchi et al. 2014)、およびインド・ラージャスターン州のタール砂漠における細石器について (Raczek et al. 2014) の発表があった。3つの発表では、インダス川流域から南東へタール砂漠を横断する範囲における前期完新世以降の石器技術の変化についておおむね共通する特徴 (石刃剥離における稜形成と円錐形石核の発展) と、一方でタール砂漠における細石器の盛行とインダス平原隣接地域とグジャラートにおける大型石刃の展開という差異とが見出せ、会場にて相互に意見交換に盛り上がったところである。このほか時代と地域が異なるが、西ベンガル州における後期旧石器時代の細石器の遺跡が報告された (Basak 2014)。なおこの発表は、今回、先史時代に関する唯一のものであった。

低調な土器研究に対して、インダス文明を特徴づけるシンボリックな遺物とその技術に関する研究発表は多かった。とくにインダス式印章については4つの発表があった (Ameri 2014; Frenez et al. 2014; Jamison 2014; Konasukawa 2014)。印章のモチーフ、製作技法から地域性あるいは時期差の問題が議論されるなど、考古資料・物質文化に関してはもっとも注目されていたと言える。このほか、織物と繊維 (Kenoyer 2014)、銅・青銅技術 (Hoffman 2014)、おもり (Rahmstorf 2014)、象牙製杖 (Miller 2014) について、およびアラビア半島東部オマーンにおけるインダス文明由来の考古資料・技術要素の発見にもとづく交渉関係の検討 (Esposti et al. 2014) などの発表がなされた。

インドス文明関連以外の考古学的研究としては、インド、バングラデシュ、スリランカにおける歴史時代遺跡、とくに都市や港湾の調査報告、およびインド洋交易に関連する考古資料等の調査に関する発表があった。また内陸アジア（タジキスタン、アフガニスタン）、パキスタン北部、インド北部ヒマラヤ山地などにおける調査報告もあった。

中でも注目されたのは、フランス-インド共同調査によるラダック（Ladakh）の総合調査である（Bruneau and Ota 2014）。高冷地における人類の環境適応、ヤク飼養の開始、農耕不可能地における遊牧・交易社会の成立などの解明を目指し、標高 3,000 m 級の山間部で行なわれた調査では、石器時代まで遡る可能性のある資料が採集されているという。まだ表面調査の段階にとどまるため、年代的位置づけは今後の調査結果を待たなければならないが、人類の高冷地進出と適応の歴史を考えるうえで重要な調査地となることは間違いないだろう。

また紛争地域における困難な状況下で継続されている、フランス隊（DAFA）のバルフ（Balkh：アフガニスタン北部）調査（Marquis 2014）、およびイタリア隊のスワート（Swat：パキスタン北部）調査（Micheli 2014; Olivieri 2014）は、継続的な調査の成果がまとめられていた。残念ながらキャンセルになったパキスタン北部タキシラ（Taxila）遺跡群の一角バーマラ（Bhamala）の仏教寺院遺跡の調査（パキスタン-インド共同調査）など、パキスタン北部からアフガニスタンにかけての紛争地域でも継続的な考古学的調査が行なわれている。こうした取り組みは、地域の安定化に向け文化遺産を活用することへもつながり得るものである。今後、国際的に注視し、支援していくことが必要と思われる。

このほか、筆者も最近少なからぬ関係を有していることから注目したのは、パキスタン北部ハイバル・パフトゥンフワ州に関する美術史および文化遺産に関する研究発表である。Khan (2014) は、スワートのスーフイズム（イスラム教神秘主義）に取り込まれた仏教文化の図像（菩薩像）を指摘し、図像や口頭伝承などに伝わる仏教文化の影響について発表した。こうした仏教文化伝統の影響については、現地の研究者間では一定の認識があるものの、学界で広く認知されているとは言い難い。発表者は、ロミラ・ターパル女史に賞賛、激励されて大いに喜んでいった。

もう1本、Anwar and Khan (2014) は、ハイバル・パフトゥンフワ州におけるガンダーラ仏教文化遺産の破壊・盗掘問題について報告した。ちょうど、すべての研究発表の最後に行なわれたため、2会場に分かれていた参加者がおおむね集まり、シビアナ現状についての報告の後に活発な意見交換が行われた。まず大方の同意を得られたのは、こうした行為が宗教的背景によるものではなく、組織的な

密売集団により計画的に実施されているという点である。つまりイスラム教徒が多数派を占めるパキスタン固有の問題ではなく、たとえば仏教徒が多数派を占めるスリランカにおいても、同じように仏教遺跡の盗掘、仏教文化遺産の密売が後を絶たないのだと言う。その背後には、国際的な故買市場の存在があり、そこでの資金が現場に還流することにより、密売集団が活発に活動するという負のサイクルがある。

こうした現状に対しては、当事国が法制度を整備し、取り締まりを厳しくするべきだという意見が出される一方で、国際的な故買市場から還流する資金により司法組織の腐敗が蔓延し、取り締まりが無効化されるという問題が指摘された。盗掘が行なわれている現場だけでなく、密輸や故買に関与している国や地域がすべて当事国意識をもって対処しなければ状況は改善しないというのである。なお大規模な故買市場として、ロンドン、シンガポールと並んで東京が名指しされた。少なくとも、国際的にはそのように認識されているということである。現地における保護・保存の取り組みだけでなく、遺跡、文化遺産を取り巻く国際的な状況を改善するための支援・協力、とくに当事国のひとつであるという意識と具体的な取り組みが問われるところであろう。

なお今回会議の参加者は、全体的に前回（2012年、パリ・ルーブル美術館）に比べてやや少なかったように見受けられた。とにかく滞在費をはじめ物価が高いスウェーデンでの開催であったことによるのか、それとも各地で南アジア関連の考古学国際会議が開催されるようになった影響なのかはわからない。少なくとも、博士課程在籍中の学生、あるいはポスドク研究者に関しては、ヨーロッパの大学に所属する参加者がほとんどであり、ヨーロッパで開催されるという地理的障壁は、南アジア諸国からの参加希望者、とくに若手研究者や学生にとってはきわめて大きい。



図4 日本とパキスタンからの参加者の交流

その条件は筆者にとっても同じである。しかし日ごろ直接会うことの難しい各国の研究者たちと交流し、また最新の成果に触れる数少ない機会として、何とか手だてを尽くしてまた参加したいところである。

なお筆者の興味関心の偏りと、2会場に分かれてセッションが同時進行するという構成上、学会全体の様子を報告できなかったことについてはご容赦いただきたい。論文集は、おおむね次の会議の前後には刊行されるので、詳細を知りたい方はお手に取られるとよいのではないだろうか。

引用参考文献

- Hammond, N. 1973 Editor's Preface. In N. Hammond (ed.), *South Asian Archaeology*, xi-xii. London, Duckworth.
- Ameri, M. 2014 Replicating Monsters: Analyzing the Mythological Imagery of the Harappan World in Light of Recent Scholarship on the Monstrous In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 6.
- Anwar, N. and F. Khan 2014 Vandalism of Gandharan Buddhist Heritage in Khyber Pakhtunkhwa, Pakistan. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 6.
- Basak, B. 2014 Late Pleistocene Microlithic Industries in the Ayodhya Hills, West Bengal, Eastern India: Reconstructing a Past Use of Landscape. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 8.
- Bates, J., C. A. Petrie and R. N. Singh 2014 Agriculture in Indus Villages: the Emerging Picture of Rural Agricultural and Subsistence Practices during the Urbanisation and De-urbanisation of the Indus Civilisation in Northwest India. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 10.
- Bruneau, L. and S. B. Ota 2014 'Gateway to Central Asia': the Nubra from Prehistory to History. Results of the first campaign of the Indo-French Archaeological Mission in Ladakh. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 12.
- Chase, B., D. Meiggs, and P. Ajithprasad 2014 Pastoral Landscapes of the Indus Civilization in Gujarat as Revealed by Biogenic Isotopes. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 14.
- Conesa, F. C., A. Balbo, M. Madella, B. Rondelli, C. Lancelotti and P. Ajithprasad 2014 A Matter of Scale: a Geoarchaeological Approach to Holocene Archaeology in Semi-arid Areas (North Gujarat, India). In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 15.
- Esposti, M. D., D. Frenez and J. M. Kenoyer 2014 Indus Interaction with Interior Oman: New insights from the Early Bronze Age Stone Tower ST1 at Salut. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 16.
- Didier, A. and A. Bouquillon 2014 Characteristics and Evolution of the Painting Techniques on 4th-2nd Millennium BCE Ceramics from Kachibolan and Kech-Makran regions (Balochistan, Pakistan). In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 16.
- Frenez, D., G. Marchesi and M. Vidale 2014 Integrating Cultures: Seals with Harappan Motifs and Cuneiform Inscriptions. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 17.
- Gadekar, C. and P. Ajithprasad 2014 Lithic Assemblage Variation during the Holocene Gujarat. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 18.
- García-Granero, J. J., C. Lancelotti, M. Madella and P. Ajithprasad 2014 What's in the Thali? Holocene Plant-related Subsistence Strategies in North Gujarat. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 19.
- Hoffman, B. 2014 Copper/Bronze Metallurgy at Harappa (3300-1700 BC): A Preliminary Model. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 25.
- Jamison, G. M. 2014 New Insights into Indus Unicorn Seal Production: Stylistic, Metric, and Technological Approaches to Variation in Manufacturing Techniques. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 28.
- Jones, P. 2014 Shifting Rains and Failing Crops? An Isotopic Analysis of Crop Water Stress and Agricultural Resilience in the Greater Indus Region, 3000-1500 BC In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 31.
- Kenoyer, J. M. 2014 Textiles and Fibers of the Indus Civilization: Archaeological and Experimental Studies from Harappa and Chanhudaro. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 31.
- Khan, R. 2014 Sacrality Continues- Socio-religious Syncretism in Swat (Pakistan) and its Manifestation in Visual and Oral Traditions. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 33.
- Konasukawa, A. 2014 Regional Variations of the Harappan Seals in Light of Their Designs and Carving Techniques through SEM and 3D (PEAKIT) Analyses. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 34.
- Lancelotti, C., G. Orlando, V. Caracuta, G. Fiorentino, J. J. García-Granero, M. Madella and P. Ajithprasad 2014 Rainfall Patterns, Temperature, Ecology and Human Behaviour: All You Can Get from Archaeological Wood Charcoal. A Study from Loteswar, North Gujarat. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 36.
- Marquis, P. 2014 2004-2011 DAFA Surveying the Oasis of Balkh/Afghanistan. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 38.
- Micheli, R. 2014 Shell Bangles, Body Adornment and Indianization Processes: Some Insights from the Late Kushan Phase at Barikot (Khyber Pakhtunkhwa, Pakistan). In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 39.
- Miller, H. J. 2014 Incised Ivory Rods from Dales' 1964-65 Excavation at Mohenjo-Daro. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 40.
- Neogi, S. and C. French 2014 Soil Micromorphology from Indus Settlements and Surroundings: Reconstruction of Mid-Holocene Environmental Conditions in NW India. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 43.
- Noguchi, A., Q. H. Mallah, F. Chiba, S. Yokoyama, Y. Shitaoka, G. M. Veesar, N. Shaikh and H. Kondo 2014 Techno-morphological Assessment of the Lithic Assemblage and the Blade Core Reduction Sequence of Veesar valley, at the Western Fringe of the Thar Desert, Northern Sindh, Pakistan. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 43.
- Olivieri, L. M. 2014 Urban Crisis in Swat at the End of the 3rd Century CE. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 44.
- Parikh, D. 2014 Ceramics, Hybridity and the Negotiation of Identity in the Indus Civilisation. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 45.
- Petrie, C. A., R. N. Singh, C. A. I. French and D. I. Redhouse 2014 The Rakhigarhi Hinterland Survey Stage 2. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 45.
- Raczek, T. P., P. Shirvalkar and L. Pandey 2014 Mobility and Microliths: Analyzing Technology at Jawasiya. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 47.
- Rahmstorf, L. 2014 Weight Metrology in the Harappan Civilization: Results of a Recent Comprehensive Study. In *Book of Abstracts, the 22nd EASAA Conference*, 47.
- EASAA ウェブサイト : <http://www.easaa.org/>

野口 淳

NPO 法人南アジア文化遺産センター

Atsushi NOGUCHI

NPO Japanese Centre for South Asian Cultural Heritage